

出塞行（王昌齡）

白草原頭 京師を 望めば

黄河 水 流れて 尽くる 時 無し

秋天 曠野 行人 絶ゆ

馬首 東来 知んぬ 是れ 誰ぞ

白草原頭望京師 黄河水流無盡時
秋天曠野行人絶 馬首東來知是誰

解説 西域守備の兵の故郷を思う詩。

語釈 ※出塞行Ⅱ辺塞守備の兵士の辛苦を述べる。※白草原頭Ⅱ白草の生い茂っている原野のあたりの意。※京師Ⅱ都、長安をさす。

※秋天Ⅱ秋の空。※曠野Ⅱ何も無い広々とした野原。※行人Ⅱ旅ゆく人。※馬首東来Ⅱ馬の首を東へ向ける。※知是誰Ⅱ誰であるかわからない。

通釈 白草の生い茂る原野のほとりに立ち、なつかしい都のほうを望み見る。だが、都は見えるはずもなく、ただ黄河の水が西から東へ流れ去って尽きるときもない。秋空のもと、果てしなく広がる原野には行き来する人影も絶えた。と折しも、馬首を東に向け都のほうへ行く者が見えた。いったいあれはだれであろうか。